

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	道路補修事業	会計	一般会計	事業No.	579	施策順No.	44-013
		事業種別	政策・重点	予算科目	8-2-2-10-1		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	土木課		
施策	44 交通機関と道路の充実			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市道						A十分達成した Bどちらかといえれば達成した Cどちらかといえればできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	路面陥没、側溝破損、道路構造物破損等の維持補修必要箇所を修繕し、交通の安全を図る。							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
		市道延長:km(管理系の資料による)	1705.4	1711.6	1711.7	1711.7	1711.7		
		補修実施か所数:か所	394	492	432	410	487	400	A
		道路補修用資材支給実施か所数:か所	210	215	171	170	110	120	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		道路補修については、目標を大幅に上回る事ができた。 資材支給は要望箇所が減少したが、100%対応できた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> ○舗装施設を除く、道路施設の維持補修を行う。 ・道路陥没補修。・道路側溝及び横断側溝、横断暗渠の破損補修及び老朽施設の補修。 ・ガードレール、ガードフェンス、ガードパイプ、照明施設等安全施設の破損補修及び老朽施設の補修。 ・土留構造物の破損補修及び老朽施設の補修。 ○市内20地区の自治会からの道路補修用資材要望か所へ補修用資材を支給する。 ・補修用資材 生コンクリート、U字溝、排水用パイプ等。 		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 道路維持補修工事	1 維持補修工事数	1 487カ所
	2 住民自ら行う道路維持補修工事	2 資材支給箇所	2 110カ所
23年度実施計画	1 道路維持補修工事	1 維持補修工事数	1 400カ所
	2 住民自ら行う道路維持補修工事	2 資材支給箇所	2 120カ所

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (国)地域活性化事業きめ細かな臨時交付金(10/10) 21→22繰越明許費6,122千円
	国庫支出金		19,122	19,122		
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源			191,592	191,578	176,000	
計(A)			210,714	210,700	176,000	
	正規職員所要時間			1,500		
	臨時職員等所要時間			1,000		
	人件費計(B)			6,439		
	トータルコスト A+B			217,139		

4 事業に対する市民や議会の意見

・各地区からの補修要望や緊急補修要望が毎年多数報告されている。施設の老朽化も進んでおり、交通の安全上早急な対応が必要である。
近年、住民の意識の中に自分達でできることは自分達で行おうという考えを持つ方が増えてきている。意欲ある住民に対し、市としても積極的に本事業の導入を行っている。
・維持管理に関する予算確保を議会から求められている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞り者、財産、事業者が、便利で安全に移動ができる	施策の成果指標又はムツ指標	市内の移動に不便を感じる市民の割合(道路):%
この事務事業は施策の目的達成にどのよう貢献しましたか	4年間の振り返り	道路補修を行うことにより、歩行者や車両が安全に通行することができた。		
	後期に向けた課題	道路側溝、縁石など経年劣化による補修要望が増加している。路肩崩落によりコンクリート構造物の必要性も増加している。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	補修依頼のあった箇所はたとえ小規模な補修であっても、早期に現地確認・補修工事を行うことにより、依頼者や地域住民の満足を得ることができた。 資材支給については、個人の道路や側溝でない限りほとんどの箇所について要望に対応できた。		
	後期に向けた課題	補修依頼箇所の増加に伴い、早期の現地確認、補修工事が困難となりつつある。 農村部に要望の多い資材支給は、高齢化により年々要望が減少している。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	補修箇所をまとめて発注することにより、コスト削減に努めた。		
	後期に向けた課題	市が発注する工事に比べ労力を地元が負担する資材支給は、安価に地域の要望を満たすことが出来るため、今後は要望が増加するよう積極的にPRする必要がある。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	道路の管理責任は飯田市であるため、適切である。 資材支給については、飯田市がいずれ改良する必要があるものを、地元が労力を提供し早期に完成させようとするもので、積極的な住民参加であり望ましいと言える。		
	後期に向けた課題	特になし。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	早期に現地確認・補修工事を行うことにより、依頼者や地域住民の満足を得ることができた。		
	後期に向けた課題	側溝、暗渠、その他道路施設の老朽化により、補修費の増加が予想される。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	--	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------